

ZOOM FIRE-36M 追補マニュアル

このたびは、ZOOM FIRE-36Mをお買い上げいただきまして、ありがとうございます。FIRE-36Mは、モデリングアンプZOOM FIRE-36と同等の機能に加え、スピーカーからのサウンドを収録する内蔵マイクと、ダイレクト出力端子を搭載した製品です。この追補マニュアルでは、FIRE-36 から変更／追加された仕様や機能について説明しています。共通の仕様や機能については、同梱されているFIRE-36のマニュアルを併せてご参照ください。

■ FIRE-36Mの特長

FIRE-36Mは、FIRE-36と同等の機能に加え、次のような特長を備えています。

- キャビネット内部に、スピーカーから直接収録するための2本のマイクと専用プリアンプを内蔵。わずらわしいセッティング抜きで、ダイナミックマイク風（マイク1）またはコンデンサーマイク風（マイク2）のアンブサウンドが素早く得られます。
- アンプの信号を外部機器にダイレクト出力するRECORDING OUT端子を搭載。2つのマイクからの入力信号またはライン出力信号を単独で、あるいは3系統の信号をご希望のバランスでミックスして、レコーダーなどの外部機器に送信できます。

■ 変更／追加された端子／コントロール類

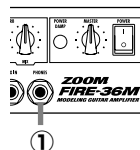
FIRE-36Mでは、FIRE-36と比べて以下の端子／コントロール類が変更／追加されています。

フロントパネル

① [PHONES]端子

ヘッドフォンを接続するための端子です。この端子にプラグが接続されると、自動的にスピーカーの内部接続が解除され、音が出なくなります。

※FIRE-36のマニュアルではこの端子を「録音機器やヘッドフォンを接続する」と説明していますが、FIRE-36Mではヘッドフォン専用の端子に変更されています。



リアパネル

① RECORDING OUT [BALANCE]端子

バランス式のXLR出力端子です。録音機器やミキサーのバランス入力端子へ接続します。

② RECORDING OUT [UNBALANCE/PHONES]端子

アンバランス式のTRSフォン出力端子です。録音機器やミキサーのアンバランス入力端子に接続します。追加のヘッドフォン端子としても利用できます（この端子にプラグを接続しても、スピーカーの音には影響しません）。

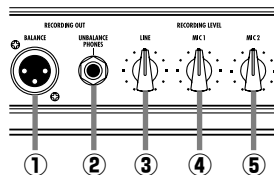
③ [LINE LEVEL]ノブ

RECORDING OUT 端子（①／②）から出力されるライン信号の音量を調節します。左に回しきると信号が出力されません。

④ [MIC 1 LEVEL]ノブ

⑤ [MIC 2 LEVEL]ノブ

それぞれマイク1（ダイナミックマイク風サウンド）またはマイク2（コンデンサーマイク風サウンド）からの信号の音量を設定します。左に回しきると、そのマイクからは信号が出力されません。



■ 内蔵マイクからの信号を使用する

FIRE-36M では、キャビネット内にスピーカーからのサウンドを収録するマイクと専用のプリアンプが搭載されています。このマイクで収録した信号は、アンプ内部のライン信号とミックスしてから、リアパネルのRECORDING OUT 端子からダイレクト出力できます。

ここでは、内蔵マイクからの信号を RECORDING OUT 端子から出力し、レコーダーなどの外部機器に送る方法について説明します。

1. リアパネルのコントロール類を絞りにった状態で、RECORDING OUT 端子にレコーダーやミキサーなどの機器を接続してください。

楽器の接続方法やフロントパネルの操作方法については、FIRE-36のマニュアルをご参照ください。

※フロントパネルの[PHONES]端子にヘッドフォンを差し込むと、スピーカーへの内部接続が切り離されるため、マイクからは信号が入力されなくなりますので、ご注意ください。

2. FIRE-36Mの[MASTER]ノブを、適切な音量が得られる位置に設定してください。

※音量が小さすぎたり大きすぎたりすると、マイクからの信号が思うような音にならないことがあります。[MASTER]ノブは、中央(12時)の位置を開始点として、演奏する環境に応じて調節することをお勧めします。

※ご使用のギターやアンプの設定によっては、音量が大きすぎるときにパワーアンプやスピーカー部分で出力音が歪むことがあります。このような状態では、マイクからの信号が耳障りになる場合がありますが、これは故障ではありません。

3. [LINE LEVEL] / [MIC 1 LEVEL] / [MIC 2 LEVEL] ノブを操作し、ライン信号とマイク1 / 2からの信号のバランスを調節してください。

外部機器の入力部でクリップしない範囲で、なるべく大きい音量になるように設定してください。

※マイクの音量は、スピーカーの音量変化に対応するため、可変範囲が大きく設定されています。スピーカーの音量に合わせて、そのつど調節してください。

※外部機器側でも、入力レベルが最適になるように調整してください。

■ 故障かな? と思ったときは

- マイクから入力された信号が聞こえない
 - ・フロントパネルの[PHONES]端子にヘッドフォンが接続されていませんか?
 - ・リアパネルの[MIC 1 LEVEL] / [MIC 2 LEVEL] ノブが上がっていますか?
 - ・マイクから入力された信号は、スピーカーの音には影響しません。
- マイクから入力された信号が歪む
 - ・フロントパネルの[MASTER] ノブが上がりにすぎいませんか?
 - ・外部機器の入力レベルは適切に調整されていますか?
 - ・[MIC 1 LEVEL] / [MIC 2 LEVEL] ノブを調整してみてください。
- マイクから入力された信号の音に他の音が混ざる
 - ・マイクは周囲の音も拾います。周囲の雑音がない状態でモニターしてください。

■ 製品仕様

マイクrohon 2 × 無指向性コンデンサーマイクrohon

アウトプット

ヘッドフォン出力

標準ステレオフォンジャック

80 mW (32 Ω 負荷時)

バランス出力

XLR-3-32ジャック

定格出力レベル +4 dBm / 出力負荷インピーダンス 10 kΩ 以上時

アンバランス出力

標準ステレオフォンジャック

定格出力レベル +4 dBm / 出力負荷インピーダンス 10 kΩ 以上時

*0 dBm = 0.775 Vrms

*製品の仕様及び外観は、改良のため予告なく変更することがあります。